

# 揺らぐ大地

光あれ、いまこのときも コタンの恋 向日葵を描く女

土橋芳美 著

小学生のころ、母方のコタン（集落）を訪ねるのが楽しみだった。母を生んですぐに亡くなった祖母の妹たちがいて、この人たちを私は「ばあば」と呼び親しんだ。子供には日本語で話していたが、同世代の者たちはアイヌ語だった。このばあばたちは明るかった。集って声高にウウエペケレ（昔ばなし）や、ヤイサマ（即興歌）をし、手拍子をして笑いころげた。全て、アイヌ語なので私には理解できなかったが、楽しげな雰囲気は伝わってきた。そして、ばあばたちの話が終わるたびに、「チャッケレ」と言っていたのを覚えている。萱野茂さんのアイヌ語辞典で調べてみると チャ 言葉 ケレ 触れる とある。言語学的にはどうなのか知らないが私なりに解釈すると「あなたの話に触れてうれしい」とでも言うのだろうか。

今回、このポピコイコタンを舞台に小説を書いたが、ばあばたちが「チャッケレ」と言ってくれることを願っている。  
(あとがきより)

## 揺らぐ大地

土橋芳美



藤田印刷エクセレントブックス

真っ赤な画面下方に枯れた向日葵がどんと置かれてある。重々しいが、何か強靱なエネルギーを発しているような感じだ。

道展に初入選した絵も枯れた向日葵だった。あれから十七年経っても里奈子の向日葵は太陽に向かうことはないのか。もう一枚ある、やはり百二十号の大作だが、こちらは黒い下地に黄色い向日葵が下を向き、そこからかすかな光がもれている。少しは明るいだが、やはりどこか重いものが見るものを捉える。

裕造はいつもこうした絵の前に立つとき、里奈子がアイヌ民族であることの重さなのかと考えてみる。

(本文より)

### 目次

揺らぐ大地 5

光あれ、いまこのときも 79

コタンの恋 137

向日葵を描く女 213

解題——マーク・ウィンチェスター 286

あとがき 294

### ■土橋 芳美 (とばし・よしみ)

#### 略歴

1947年 北海道沙流郡平取町生まれ

1971年 『日高文芸』に参加

1973年 月刊新聞『アスタリアイヌ・我ら人間』創刊

2017年 『痛みのペンリウク——囚われのアイヌ人骨』

(草風館) を出版

2017年度 北海道新聞文学賞・詩部門佳作入賞

貴店番線

発行:藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546

月  
日

## 揺らぐ大地

光あれ、いまこのときも  
コタンの恋  
向日葵を描く女

土橋芳美 著

定価1,980円(税込) ISBN 978-4-86538-142-9 C0093 ¥1800E

2022年8月7日 第1刷発行  
発行所 藤田印刷エクセレントブックス  
判型 四六判(300頁)  
印刷・製本 藤田印刷株式会社

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで